

研究
テーマ

留学生の日本語学習過程における認知的・情意的変容の研究

◆キーワード

学習環境、日本語学習、変容、縦断的研究

◆産業界の相談に対応できる分野

外国人に対する日本語教育、多文化共生教育

留学生センター 教授

八若 壽美子

TEL 029-228-8795

FAX 029-228-8795

e-mail hachiwak@mx.ibaraki.ac.jp

一言
アピール

日本語学習者の学習過程の諸相を個別的・縦断的に捉えます。

研究概要

本研究は、日本語学習者の個別性に着目し、PAC分析(Personal Attitude Construct: 個人別態度構造分析)を用いて、個々の留学生の日本語学習における自己評価のイメージ構造を「学習者と学習環境の相互作用」という観点から縦断的に分析することによって、留学生の日本語学習過程における認知的・情意的変容を明らかにしようとするものです。

韓国人学部留学生2名を対象に行った3回の調査(2005年3月、2006年3月、2007年3月)では、2名の日本語学習に対する自己評価のイメージ構造がどのように変容したかを分析しました。その結果、以下のことが判明しました。①属性に共通点を多く持つ2名でも個々が遭遇する学習環境は異なる点も多く、環境との相互作用として起こる学習は異なる。②目標言語である日本語が使用される環境においては遭遇する学習環境に即して随時自己の日本語及び日本語学習を評価し、問題点克服のための学習行動を模索している。③日本語能力向上や慣れ、社会参加の増大といった、学習者自身や環境の変化に伴い学習認知及び学習行動が変容している。

同様の手法でインドネシア人大学院留学生を対象とした4回の調査(2005年3月、2006年3月、2007年3月、2008年3月)を分析した結果、前述の韓国人とは属性に異なる点が多いにもかかわらず、随時自己の日本語学習を評価し、学習者自身や環境の変化に伴い新たな問題点を認識し、改善しようとする学習行動の変容が観察され、学習者が環境との相互作用を

通して学んでいくことが確認できました。

今後は、属性を超えた枠組で学習者を捉えなおし、学習を促進する個別性要因・環境要因、学習を阻害する個別性要因・環境要因等を帰納的に探るために、さらに被調査者数を拡大して同様の縦断的調査を行う予定です。

具体的には、①学習者が自己の日本語学習をどのような環境でどのように捉えているか、②どのような環境との相互作用が学習を促進するか、③どのような環境や経験が学習の障害となるのか、④以上3点が時系列でどのように変化するかを4点を中心に検討したいと考えています。

また、以上の分析を踏まえて、授業内外での個々の日本語学習を促進するために、1)授業内でどのような対応が必要か、2)授業外でどのような環境づくりや支援が必要かを提案したいと考えています。

何に
使える?

外国語教育のデザイン、外国語学習の環境作り、外国語学習リソース開発、外国語学習の支援ネットワーク構築